

H19年3月議会 関連質問

発言の種類	質疑	関連質問	緊急質問	討論	その他
件名	1. 教育改革について 2. 指定管理者制度・公契約について 3. 県と市の連携について				
発言の要旨 (討論の場合は 賛成反対の別)	1. 教育改革について (ア)ゆとり教育について (イ)生きる力の教育について (ウ)経済格差と学力格差について 2. 指定管理者制度・公契約について (ア)指定管理者公募が給料削減競争になっていないか (イ)公契約条例について 3. 県及び市町村の連携について (ア)広域ごみのクリーンセンター受け入れについて (イ)安来市との連携について (ウ)県事業との連携について				

○（森議員） 森雅幹です。中川議員の代表質問に関連して質問を行います。通告の順序はちょっと前後しますが、まず教育改革について教育長にお尋ねをいたします。

先ほど中川議員の質問に対し、教育再生会議で議論されてるの多くは中教審の中で議論されているものであって、余り変わりがないというようなことをおっしゃっておりました。その中で多く取り上げられているのが、学力低下論争ということが言われてまして、またこれが中教審でも取り上げられ、どうもゆとり教育、私はこの言葉はよくないとは思っておりますけれども、ゆとり教育を見直して基礎学力をつけるんだと、そういう方向に行ってるようです。このことについて教育長はどのように考えておられるのかお伺いいたします。

○（吉岡議長） 足立教育長。

○（足立教育長） 学力2つありまして、1つの学力は、前から言われるような読み書きそろばんの始まる基礎学力という、もう1つは、今問題になってたみずから学び、みずから課題を見つけ、みずから問題を解決する力、そういうようなところで2つを目指していくべきだというように私は思っております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） 私も教育長のおっしゃることに大賛成であります。これまで10年ほど前にゆとり教育にかじを切ったわけですが、それまでの多くのいわゆる詰め込み教育についての反省がこのゆとり教育になったのだとこういうことだろうと思います。そういった意味において新たな価値観、生きる力、これを学校で教えよう、こういったことなんです、今議論をされている、再生会議や中教審で議論されているこの生きる力を伸ばしていこうということが、今後、今議論されているのは時間を減らして、その分教科の時間をふやそうとこういう動きだと思うんですが、これについて教育長の所見をお願いいたします。

○（吉岡議長） 足立教育長。

○（足立教育長） 時間をふやす、あるいはふやせば確かに効果があるようには思いますけれども、やはり足腰をしっかりとさせるための基礎基本という時間が必要だと思います。よって時間がじゃあどうなのかということになりますと、それはあった方がいいんですけども、もう一方のみずから学ぶ問題解決力になると、やはり総合的な時間というものがすごく役に立って、その効果というものは小学校なんかでも中学校でも、自分で物を調べて自分で発表するという力は確かに出てきております。ただ基礎基本のそういう腰や足をしっかりとさせるのをやはり今の教育、もう1回反省すべきというところはあるというように思っております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） 私は前に鳥取短期大学の学長の山田修平先生のお話を聞いて

たんですけれども、不安定なコップ理論という、だったんですけれども、子どもたちは大変不安定なコップを持っていると。そのコップが反対側になってるときに、幾ら水を入れてもたまらないでしょうと。だけれどもその不安定なコップを上に向けて、そのときに水を入れればどんどんたまっていきますよと。これが教育なんですってということが山田修平先生の話でした。私もそれだと思っんですよ。それが私は生きる力をつけていくこと、要するにコップを表にすることだと思っんですが、今ややもすると詰め込み教育に戻りかけている。ここで私たちは、あるいは米子市教育委員会は国に対して何かアクションを起こしていくべきではないかと思っんですが、教育長の所見を伺います。

○（吉岡議長） 足立教育長。

○（足立教育長） 私たちはそういう学力論争に思うところは、そういうところが国会のいろんなところに出てきておりました、かじは少しずついぐあいに私は切られてきているなというようには思っております。先ほど言われましたように、やはり基礎基本の詰め込みというところ、その詰め込みの物の考え方ですけど、今見直されているのは脳が一番活動しているときはどういうときかという、コンピュータをしてるときでは全然ないんですね。あれはほとんど動いていない。ところが昔に言ってるように音読をしてるとか、声を出して読むということですね、あるいは掛け算を一生懸命覚えている、そのときの脳は最高に動いているということがはっきり脳科学の中でわかってきたんです。それが今、老齡のいろんな問題にも使われたりするようになってきましたが、その辺をやはりもう一度考えながら、詰め込みという意味ではなくてやっていくべき。それからこういうことを今中教審の中でも2つの説がありまして、その辺が大きく闘ってるところじゃないかなと思っております。機会があればそういうことを言っていきたいというようには思っております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） 私は教育長の言葉に大賛成でございます。米子市としてそういった形をやっぱりやっていく必要があるんじゃないかと思っております。また先ほど中川議員の質問の中で、教育委員会改革ということを生学会議が言ってまして、国がコントロールするんだ、市町村の、あるいは県の教育委員会をコントロールするんだってこういうことを言ってるわけですけども、これについての考えをお願いいたします。

○（吉岡議長） 足立教育長。

○（足立教育長） 国の方でもこの動きに対しましてはストップがかかったり、あるいはやはり今度のいじめ問題等を考えると教育委員会は国が直接入った方がいいではないかというような論議が今あるところでした、私はそれよりももっと国は人的な措置とか予算措置とか、あるいは定員の問題を30にするとか、県に任せないでそういうような問題をもっとやって

ほしいなというように思っております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） もう一度ちょっと学力低下の話に戻すんですけども、国がこうやって地方の教育委員会の方にも手を出していく、こういうような形になってきています。学力低下っていう問題で、先ほども言いましたけどもゆとり教育を見直して詰め込みの方に行かせようとしています。中教審もそういう方向だと思いますが、ですけども私は学力の低下の一番の原因は家庭の格差ではないかなと思っています。今新聞の中でも非常に言われています。経済格差が文化格差を生んで、その文化格差が学力格差を生んでいる、その学力格差の次には就職格差を生んでいる、どんどんそれが再生産をされていく、それが今の小学校あるいは中学校の現場の状況ではないかと思うんですが、これについて教育長の所見を求めます。

○（吉岡議長） 足立教育長。

○（足立教育長） 今森議員が言われた家庭格差という問題、ちょっとどういう意味合いにとらえたらいいのかというように思いますけど、経済的な格差という力で考えますと、一面そういうことは言われますけれども、私はそれはもちろん一部あると思いますけど、もっと大切な問題は基礎基本、生活習慣ですね、生活習慣、鳥取県がやっております早寝早起き朝ごはんというこういうような、あるいはあいさつをきちんとするとか、そういうような規則を守るかとか、そういう基礎基本的な生活習慣ができる家庭が私は学力ができる本当の意味の学力、生きる力、つまり知徳体ができる力じゃないかなと、世界に通用する人間もできていくんじゃないかないう。確かに経済格差は言われますけど、私はやはり全員が、家庭の親がまず自分の家庭の基本的な生活習慣を、あるいは社会が、ですから家庭と学校と地域が子どもを育てていくというようなことが大切なものだと思っております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） 教育長のそういった考え方だと思うんですが、ところが今小学生あるいは中学生を持つ家庭の中にはやっぱり自分の生活、現在の家族を支えるためには日夜を問わず仕事をしなければならない、子どもにかまってもらえないという家庭が非常にふえています。なかなか子どもへの関心が向けない、そういった方がどんどんやっぱりふえているんだと思うんです。こういった状態の中で、また今教育再生会議の中で議論されている学校選択制度、教育バウチャー制度、こういったものがもし導入されたら米子市の教育、一体どういうふうになっていくのかということ、私はもう大変なことになっていくんじゃないかと非常に危惧していますが、教育長のこれ、お考えがあればお願いをしたいと思います。

○（吉岡議長） 足立教育長。

○（足立教育長） 学校選択性という問題、特に東京なんかではやられて

いますけど、この前、東京の品川区の教育委員さんが来られまして、学校選択性をとっているということと言われました。何でそういうことととられるんですかと、おかしいじゃないですか、やはり地域の子どもは地域で育てるべきじゃないかということをおっしゃいました。すると都会は都会の事情がやっぱりあるようですね。やはり公教育が私学に負けないようにやっけていく、つまり地域というものが東京の場合はないから、そこでああやってフリーにした場合に確かに効果があるように思ったんだけど、一番効果があったのは地域がまとまってきたと、地域が地域の子どもを育てようという雰囲気が出てきたというようなことも言っておられました。私たちは学校、その選択自由性というのは何かいいように、例えば米子でとった場合いいように思うんですけども、もっと弊害が出るように私は思っております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） 大方現在議論されている教育改革について、教育長も私とほぼ同様にちょっとおかしい方向に行きつつあるんじゃないのかというそういう危ぐを持っているというふうな感じだと思います。そこでやっぱりさっきも機会があれば国に対して意見を言っていきたいというふうにおっしゃってますが、私はここを黙って見ていけば本当に国が教育委員会まで関与していく、そういったことになりはしないか。都道府県の教育長会は国の関与は認めないということで申し入れをしたというふう聞いています。私は絶対に何かするべきだと思うんです。教育長にもう一度お願いしたいですし、それから市長に対してもこういうことをやっばり市として、自治体として国に言っていく必要があるのではないかと、そのことについての所見をお願いいたします。

○（吉岡議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 今教育再生会議でいろんな議論が行われていることは承知しているところでございますけれども、さまざまな意見が出て、必ずしもまだ集約されていないような状況だと思っております。またその教育再生会議の提言を受けて、中央教育審議会でもさらにまた議論もされるというような話も聞いております。教育の根本にかかわることですので、いろんな場所でしっかり議論していただきたいと思っております。当面はその審議の状況を見守りたいと思っております。

○（吉岡議長） 足立教育長。

○（足立教育長） 鳥取県の中の4市というのがありまして、そういう教育長が集まる会議、そういう中でまた相談をしていきたいと思っておりますし、中国都市教育長会議もございまして、そういう場では話をしていきたいというふうに思っております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） ちょっと市長の方からは見守りたいということで、やっば

り地方から声を出していくということが非常に大事なことだと思います。国の審議会、ずっと口をあけて待っていればいいということでは私はないと思います。米子市の子どもたちなんですね。その米子市の子どもたちの幸せのために何をしていくのかと、そういった非常に責任がありますので、ぜひ市長にそういったことを考えていただきたいということを申し上げて、次の質問に行きます。

指定管理及び委託業務員の問題です。公契約の問題について質問をいたします。去年、指定管理ということで多くの施設が指定管理の契約を結びました。そこではこれまで市が外郭団体に発注してきたその外郭団体の給料を自分たちがみずから給料を20%削減をして、そうしないと指定管理が受けれないと、こういうことで20%の給料の削減をみずから行いました。進んでやったかどうかは全く別ですが、結果的にはやられました。このことについて私は次、5年後にまた指定管理が公募をされて、これがまた公募をされて、金額も含めて、それからいろんな形での計画と金額と一緒に入札をしていくわけですが、これも5年後にはまた給料をそこから削減していく競争になっていくのではないかと、そのことを非常に危惧しています。こういったことでは安定して市民に対して十分なサービスをやっていく施設としてそれが成り立っていくのかどうか、非常に心配をしています。この心配に対して市長はどういうふうに考えておられるか、ちょっと伺いたいと思います。

○（吉岡議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 指定管理者制度は基本的にはよりよいサービスの提供、また公の施設の効率的な維持管理ということが目的であるわけですので、自由と競争の原理によりまして契約を締結すべきものであると考えております。そして契約を交わした以上、双方がその契約内容を誠実に履行することが求められていると考えております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） 指定管理だけではなくて、例えば公共工事あるいは委託業務、いろんなものが、市は発注をしています。これがすべてに通じることだと思うんですね。今の入札制度では、いわゆる価格競争になっています。指定管理はちょっと別ですよ、指定管理はちょっと総合、一応判断したことになってますけども、それ以外の契約はすべて一番安い金額を入れたところがとるという、こういった金額についての入札制度になっています。これがどんどんどんどん進んでいけば、今の指定管理と同じように金額だけの競争がどんどんどんどん行って、実際にはそのできたものもいいものか悪いものかということとはもう全く抜きにして、あるいはそこに働く人たちがちゃんとした生活ができるかどうか、またもっと言えば市はいろんな政策をしています。1つには人権政策、人権をどうやって守っていくのかという政策をやっていきます。男女共同参画も進める、そういったことをや

っています。ところが価格だけの競争をしているところではそういったことは全く無視をして、子育て支援なんかも全くしない、そういった企業がコストだけ下げて、そういうのを受けている、仕事を受けている、こういったことに今なっていると思います。実際にその事業だけは安くできるかもしれませんが、実際にはほかの予算を使って男女共同参画や人権の予算をまた別に費やして市の政策を実施していかなければならない、こういう条件になってるんだと思います。そういったところに総合契約ができるようなこういう条例を、公契約条例というふうに言ってますけれども、そういう公契約条例をつくって総合入札、総合契約をしていく、そういったことがやっぱり必要だと思うんですが、市長の所見を求めます。

○（吉岡議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 総合契約というのはちょっと私も概要的によく理解できないところがございますが、いずれにしましても市もいろんな政策をとっているわけございまして、その貢献度を評価して入札等での判断の基準の1つにするということを提案しておられるんじゃないかというふうに思います。市の政策への貢献度ということになりますと、市としてもいろんな政策をとっておりますし、またどのような客観的な基準を設けるかということも研究する必要があるだろうと思います。そういう意味でこの貢献度評価ということの本格的に取り入れたような契約制度を導入することは、現時点では困難であると思っております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） 先進自治体では研究している状況ですね。そういった意味で、市長はこういったことについての必要性についてはどういうふうにお考えですか。

○（吉岡議長） 野坂市長。

○（野坂市長） その政策というか、市の施策への貢献度というのはどういう基準でやるのか、また市の施策といっても多岐にわたっているわけございまして、どの施策を取り入れるのか、また入札に当たりましてはそれは一部の企業になるわけございまして、その一部の企業の集まりというものに対してだけそういう施策の貢献度というものを取り入れていいかどうかといったようなところもやっぱり考慮していく必要があるだろうと思っております。一部の市で特にその関心の高いような施策についての評価を取り入れておられるところもあるやには承知しておりますけれども、じゃあ米子の場合どういう分野を取り入れるんだというようなことも種々の観点から検討しなきゃいけないことだと思っております。そういう意味で今後の調査研究課題だと思っております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） ちょっと繰り返しになりますが、本当に地域課題であるとか、あるいは環境問題であるとか、そういったものに一生懸命やっ

ている企業、それにはコストがかかっているわけですよ。だけれどもそれは市が実際にお金を直接出してやる、あるいは市民がそれに協力してやる、企業が協力してやる、そういったものがやっぱり全体としてやっていかなきゃいけないんだと思うんです。その意味では市が発注するいわゆる公契約、そういったものについていろんな意味で1つの判断基準で、要するに金だけではない、新しい価値、今の話で環境あるいは子育て、そういったものに一生懸命やっているところを優遇していく、こういったことが私は必要ではないかと思っています。先ほど市長が研究するということがお話しでしたので、ぜひこれ真剣に調査研究していただきたいということをお願いいたします。

次に、県及び市町村との連携についてというところに入りますが、まず清掃工場の問題です。今まで西部広域で新しい清掃工場を建てるという計画でしたが、これをとりあえず年を限って米子市のクリーンセンターに受け入れるという方向での話がされておると、市長もそれで地元の説明するところということにきています。現状のお尋ねをいたします。

○（吉岡議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 米子市クリーンセンターの活用につきましては、平成18年1月の鳥取県西部広域行政管理組合正副管理者会議での提案を受けまして、昨年6月から加茂、河崎、夜見の地元3校区公民館でそれぞれ二度の地元住民説明会を行い、クリーンセンターの能力や西部圏域内の他の焼却施設の現状、将来計画案などについて御説明したところでございます。今後は米子市クリーンセンター対策委員会との間でこの提案に対する地元3校区の御意見について協議いたしまして、議会に御相談の後、米子市の方針を決定していきたいと考えております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） ここでちょっと確認しときたいんですが、先ほども給食の委託の問題であるとか保育園の民間移管の問題であるとか、要するに政策の決定の仕方ですよ。それを決まってから説明するのか、決まる前に説明するのかというそういった議論をきょうはしてきました。ここでこの清掃工場で受け入れるという問題は、地元の合意がないとやりませんね、確認をさせてください。

○（吉岡議長） 野坂市長。

○（野坂市長） もちろん地元の合意が前提だと思っております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） それはほかのことにもいろいろ通ずることがあると思うんですが、これは同じですね。ほかの政策のいわゆる主体ですよ、例えば保育園の給食の民間委託と、こういうようなこと、あるいは学校給食の民間委託、こういったことについてそれぞれの利害関係者、いわゆる保護者ですよ。こういった人たちの合意を得られてから実施するところというこ

とでいいですか。

○（吉岡議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 個々のケースによって違うと思うんですけども、やはり関係の方々にはできるだけ御理解を得てやっていきたいと思っております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） ものによって違うということがちょっと私は理解できないんですよ。清掃工場だけは地元の理解が得られないとやらない、ほかのものについてはやるというんですか、ちょっともう1回お願いします。

○（吉岡議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 個々のケースによって検討していきたいと思っております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） その個々のケースは何が、事業によって事前に説明する場合と事前に説明しない場合があるというんですか、ちょっとお願いします。

○（吉岡議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 私が具体例を申し上げるまでもなく、個々のケースによってそれぞれの性格によって対応を考えていきたいと思っております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） 全くそれわからないんですよ。何が、どういったものは事前にそういうことをしないんですか、ちょっと具体的に聞きますよ。

○（吉岡議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 市の独自の判断でできるものについては、市で判断をさせていただきたいと思っております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） だからその独自の判断でできるものというのは何ですかと聞いてるんです。それは対象の市民がいないのか、対象の市民がいても独自の判断でやるということか、そこんどこです。

○（吉岡議長） 野坂市長。

○（野坂市長） ぱっと今、最近の事例ですと市役所の開館時間を5時半までにしたところがございますけども、こういう時間の変更等、当然市民の皆さんに関係するところもございますけども、市民の皆さんにはできるだけ周知に努めながら、市の判断としてやっていくものは市の判断としてやっていきたいと思っております。例えば正月の休日は確か29日から3日までと変更するわけがございますけども、もちろん市民の皆さんにも関係する部分もあるわけがございますけども、こういうものは市民の皆さんに周知徹底し御理解も得ながらやっていきたいと思っております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） 特定される直接の市民が利害関係があるものについては合意を得てからやると、こういうことでいいですか。

○（吉岡議長） 野坂市長。

○（野坂市長） ケース・バイ・ケースで対応していきたいと思っております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） ちょっと全く不誠実な態度だということで私は残念ですが、先に行きます。清掃工場ということで安来市が今可燃物を境港に搬出をして、境港の民間業者で焼いているということだと聞いています。ここで新聞報道によりますと、安来はこの鳥取県西部広域の方に入って一緒に可燃物の処理をしたいとそういう新聞報道でした。市長はどういうふうにこれについて把握しておられますか。

○（吉岡議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 新聞報道の範囲では承知しておりますけれども、それ以上のことは承知しておりません。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） 私はこの市町村連携の中で、例えば鳥取県の圏域を越えて安来市がこういうメッセージを送ってきたということは私は非常にいいことじゃないかなと思っています。特にごみ処理ということでは、安来は最終処分場を持っています。100年もまだ大丈夫だという最終処分場を持ってるんですね。これがこういったメッセージを送ってきた、私はこれは非常にチャンスじゃないか、西部広域の中で一緒にやっていく、こういったときを逃していたらば、いわゆる一方で大きい市に合併するんだみたいなことはおっしゃってるけれども、こういったメッセージが来たときにやっぱり何かをぽんと返す必要があるじゃないですか。市長、やることあるんじゃないですか。

○（吉岡議長） 野坂市長。

○（野坂市長） ちょっと最後の御質問の語尾が聞き取れなかったんですけども、先ほど申し上げましたとおり安来の方からはお話もございませんし、新聞報道以上のことは承知しておりません。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） 私が言っているのは、こういったメッセージが安来から来たときに、何もせずに何か正式に言ってくるまでこうやって待ってるわとこういった態度なんですか。そうじゃなくてやっぱりそういうのをちゃんと情報を受けとめて、こちらから何かやっぱりアクションすべきじゃないですかということを知っているんですけど。

○（吉岡議長） 野坂市長。

○（野坂市長） ごみの問題というのは、議員御承知のように非常に微妙な問題でございます。私どもの方から安来に対してアクションをとること

は考えておりません。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） 一方で市長、大きい市に合併するとか何とかとおっしゃってるわけですが、目指すとかっておっしゃってるわけですが、内部的に連絡をとり合うとかこういったことが私はなければ全然前にも一切進まない。これがひいてはこの西部の中でのいわゆる市町村連携にもやっぱりあるんじゃないかなと思っています。きょう中川議員の代表質問の中でも、この西部の中でも余り米子市長がその中心になって引っ張っているとそういう状況じゃないというふうにも聞いています。そこんところが私は米子市は信頼できる米子市で、周りの町村も米子市の言うことはやっぱりついていかにやいけんとかこういうことになってないんじゃないか。それからごみ以外でもいろんな意味で今連携が求められているんじゃないかと思うんです。そういった意味で、米子市が今後もほかのものとして市町村連携で取り組むような事業をほかには考えておられませんか。

○（吉岡議長） 野坂市長。

○（野坂市長） 市町村連携ということでありまして、議員もよく御承知だとは思いますが、西部広域行政管理組合の中ではし尿処理の問題ですとか火葬場の問題ですとか、また消防の問題、一部の観光の問題等と一緒に連携しながらやっている事業はほかにもございます。また中海圏域4市連絡協議会の中では、先般はアダプトプログラムと一緒にやっというふうなことで一緒にやることにしたわけがございますし、また今後どういう形になるかあれでございますけれども、共通乗車券ですとか共通入場券の作成というふうなことを検討しようじゃないかということも話し合っておりますし、関西でのイベントと一緒にやろうとかアンテナショップを設けてはどうだというふうな議論もいろいろさせていただいております。またこれも4市の関係でございますけれども、御承知のように民間の方々も含めた中海・大山・宍道湖圏域の観光連携推進事業というふうなこともいろいろやっておりまして、そういう中で例えば共通の観光情報の発信ですとかいろんな形で、もちろん4市だけではございませんけれども、4市だけというか民間の方々も一緒になってやっっている事業でございますけれどもそういう事業もございますし、また4市ということでありまして産業技術展ですか、これは中海圏域ということですので去年ですか、米子市でも一緒にやったというふうなことも進んできております。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） 市町村間の連携が非常に必要だということで少しずつ進んでいるんだということなんですけれども、やっぱり首長同士の腹を割った連携から担当者同士の腹を割った連携、その中で新しい事業が生まれてくるんだと思います。ぜひそういった場を大切にさせていただいて、新しいものもどんどん取り入れていただきたいということを申し上げておしま

す。

最後に県との連携の問題ですけれども、今県が文化とか観光とか、いわゆる市と県との仕事の線引きがつかないようなものを県が今一生懸命やるようになってきました。そういった中で県は県でやっとして市は市でやっていますというような形でお互いに押しつけ合いしてるようなところがあって、1つには朝日座の事業とかこういったものは、あれは県の事業ですから市は関係ありませんみたいなこんなスタイルですよ。やっぱり県がやる事業と市がやる事業というものが一緒の方向を向いてないといけないと思うんですね。県が事業をつくる段階からやっぱり市はちゃんと情報を取り合いながら、こういった事業をつくってくれということをして市の側からどんだん言っていかなきゃいけないんじゃないか、そういった県の財源をもらわないとまた市も事業をやっていけないとそういった事情もありますから、そういった意味で県との連携は非常に大事だと思うんですが、市長のちょっと見解を求めます。

○（吉岡議長） 野坂市長。

○（野坂市長） もちろん県との連携は非常に大事だと思っております、担当レベルでも常時接触しているところでございますし、また私も行政懇談会等の場でさまざまな問題について意見を述べたり調整を図ってきたりしているところでございます。観光面におきましても、中海・宍道湖・大山圏域の観光連携事業ですとか皆生温泉のにぎわい創出事業、またエコツーリズムのサミットに関連した事業など協調を図りながらやらせていただいているところでございます。また文化面でも、朝日座につきましては企画・運営面で実行委員会に市も入れさせていただいておりますし、そういう意味で県とも協力してきておりますし、企画・運営面で今後も協力させて、どうなるかわかりませんが、協力できる分野があれば協力させていただきたいと思っております。またトライアスロンなんか県とも協力してやっていただいておりますし、また今年度で終わりになりますけれどもよさこいへの派遣事業等も県と常に密接な連絡をとりながらさせていただいてきた事業でございます。

○（吉岡議長） 森議員。

○（森議員） 市長の答弁を聞くと、県との関係は物すごくいいみたいな感じで聞こえてるんですが、県との間では、県の職員に話を聞くと、市はもう全く相手にしてくれんとかこういうような感じで話がいろんなところからやっぱり聞こえてきます。また一方では、知事は市長を相手にしてないとかこういうような話も聞いたりします。本当に首長同士が、やっぱり知事と市長との連携、そういったものがないことには県と市の担当者同士もうまくいかないのかなとそういうふうにも思ったりしています。やっぱりこれだけ金がないわけですから、県の力をかりていろんなことをやっていかなきゃいけないと思っています。その意味で県とのパイプをいろんな意

味でつくっていただきたい、そういったことをちょっと申し上げて私の質問は終わります。